

# 令和7年度ヤングケアラー支援に係る 実態調査の結果について

令和8年5月12日 作成  
郡山市こども家庭課（要保護児童対策地域協議会事務局）

## 1 調査の概要

### 1 調査目的

子ども・若者育成支援推進法の改正により、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」として、各種支援に努めるべき対象にヤングケアラーが明記された（令和6年6月12日施行）ことから、子ども自身がSOSを発信する機会を確保するとともに、支援を必要とするヤングケアラーを早期に把握し個別具体的な支援に繋げることを目的とし、実態調査を実施した。

### 2 調査対象

- (1) 市立小学校 5年生～6年生の児童
- (2) 市立中学校 1年生～3年生の生徒
- (3) 市立義務教育学校 5年生～9年生の児童生徒  
※ 令和7年度は、調査期日が短いため、中学3年生及び義務教育学校9年生は対象外

### 3 調査方法

こども家庭課が作成したQRコード（オンライン申請サービス）を読み取り、各児童生徒が所有するタブレット端末等を用いて回答するオンライン形式で実施

### 4 調査時期

令和8年1月19日（月）～2月27日（金）

### 5 回答率

| 調査対象                | 対象者数 ※1 | 回答者数   | 回答率 ※2 |
|---------------------|---------|--------|--------|
| 小学5年生<br>・義務教育学校5年生 | 2,777人  | 2,299人 | 82.9%  |
| 小学6年生<br>・義務教育学校6年生 | 2,697人  | 2,268人 | 84.1%  |
| 中学1年生<br>・義務教育学校7年生 | 2,490人  | 1,861人 | 74.7%  |
| 中学2年生<br>・義務教育学校8年生 | 2,635人  | 1,927人 | 73.1%  |
| 合計                  | 10,599人 | 8,355人 | 78.8%  |

※1 令和7年4月時点での児童生徒数

※2 小数点第2位で四捨五入

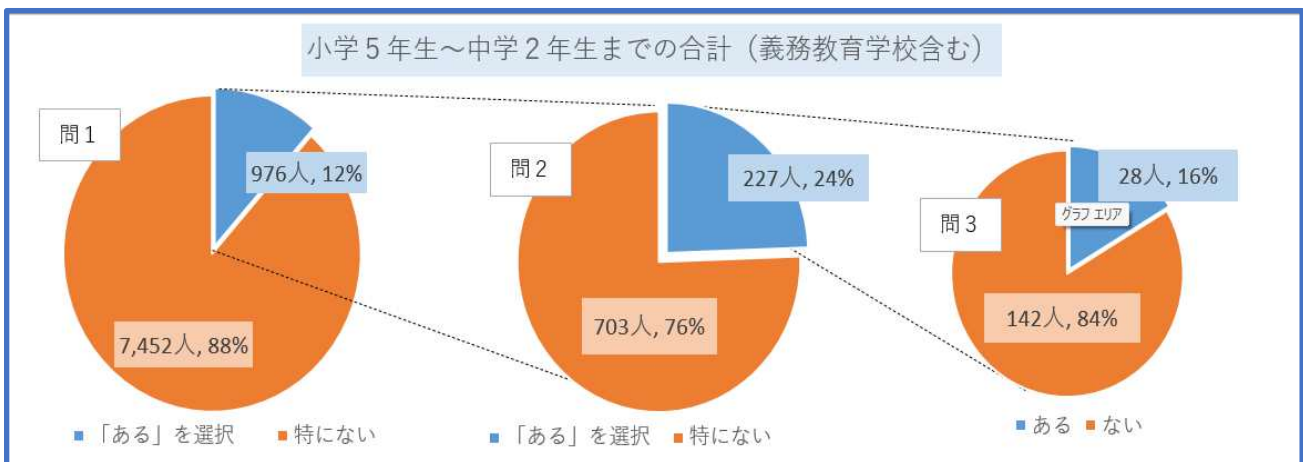
## 6 設 問

| 設 問                                 | 選 択 肢   |
|-------------------------------------|---|
| 問1<br>あなたがしている家族の世話や家事はありますか。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうだいの世話や送り迎えをしている</li> <li>・家族の通院の付き添いをしている</li> <li>・家族のふろやトイレの介助をしている</li> <li>・日本語が話せない家族やしょうがいのある家族の通訳をしている</li> <li>・病気の家族の看病をしている</li> <li>・家族の心のなやみを聞いている</li> <li>・その他</li> <li>・特にない</li> </ul> |
| 問2<br>家族の世話や家事をすることによる生活への影響はありますか。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題や勉強をする時間がとれない</li> <li>・友人と遊ぶ時間がとれない</li> <li>・部活動に参加できない</li> <li>・睡眠が十分にとれない</li> <li>・ひとりの自由な時間がとれない</li> <li>・その他</li> <li>・特にない</li> </ul>   |
| 問3<br>心配なことや相談したいことはありますか。          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある</li> <li>・ない</li> </ul>  |

【回答方法】 問1、問2で「特にない」を選択した場合は、その時点で回答終了

## 2 回答結果

### 【全学年集計】



前記の回答方法に従い、調査対象の4学年の合計では、問1で「家族の世話や家事をしている」と回答した児童生徒は976人（12%）で、この全員が問2の設問に進み、このうち「生活に影響がある」との回答は227人（24%）、さらに、問3に進んで、このうち「心配なことや相談したいことがある」との回答は28人（16%）であった。

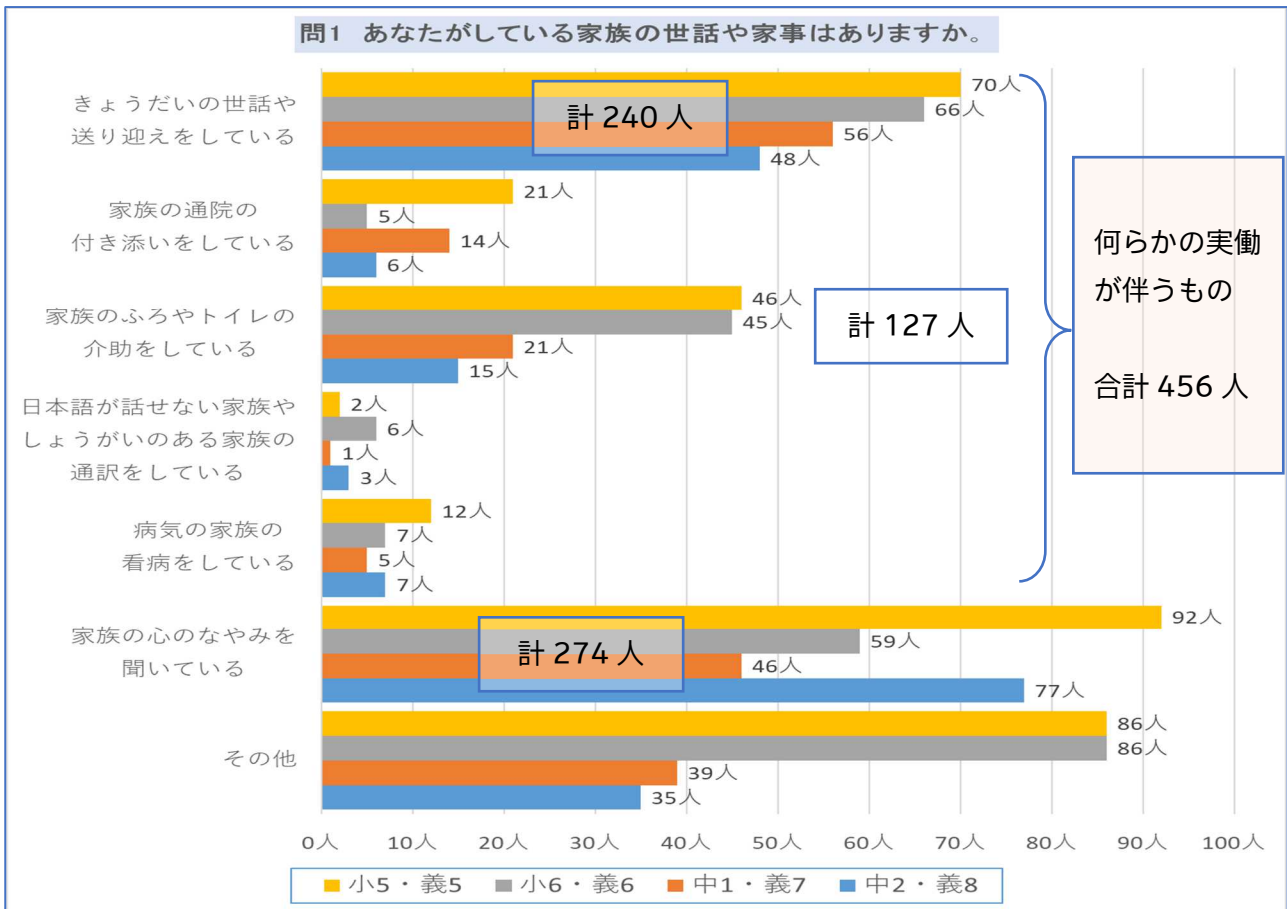
小学生、中学生別の集計においても、上記グラフと同様の傾向であるが、「家族の世話や家事をしている（問1）」との回答は小学生の割合が高いが、「生活に影響がある（問2）」との回答はほぼ同率となり、このうち「心配なことや相談したいことがある」との回答は中学生が小学生を上回っている。

## 【設問ごとの結果】

※ 問1、問2の選択肢のうち「特にない」は除外してグラフを作成しています。

### 【問1 あなたがしている家族の世話や家事はありますか】

○実人数



○割合

|         | 送り迎えをしている | 家族の通院の付き添いをする | 家族のふろやトイレの介助をする | 日本語が話せない家族の通訳をする | 病気の家族の看病をする | 家族の心のなやみを聞いている | その他  | 特にない  |
|---------|-----------|---------------|-----------------|------------------|-------------|----------------|------|-------|
| 小5年     | 3.0%      | 0.9%          | 2.0%            | 0.1%             | 0.5%        | 4.0%           | 3.7% | 88.0% |
| 小6年     | 2.9%      | 0.2%          | 2.0%            | 0.3%             | 0.3%        | 2.6%           | 3.8% | 89.2% |
| 中1(7年)生 | 3.0%      | 0.8%          | 1.1%            | 0.1%             | 0.3%        | 2.5%           | 2.1% | 89.5% |
| 中2(8年)生 | 2.5%      | 0.3%          | 0.8%            | 0.2%             | 0.4%        | 4.0%           | 1.8% | 90.6% |
| 平均      | 2.9%      | 0.5%          | 1.5%            | 0.1%             | 0.4%        | 3.3%           | 2.9% | 89.4% |

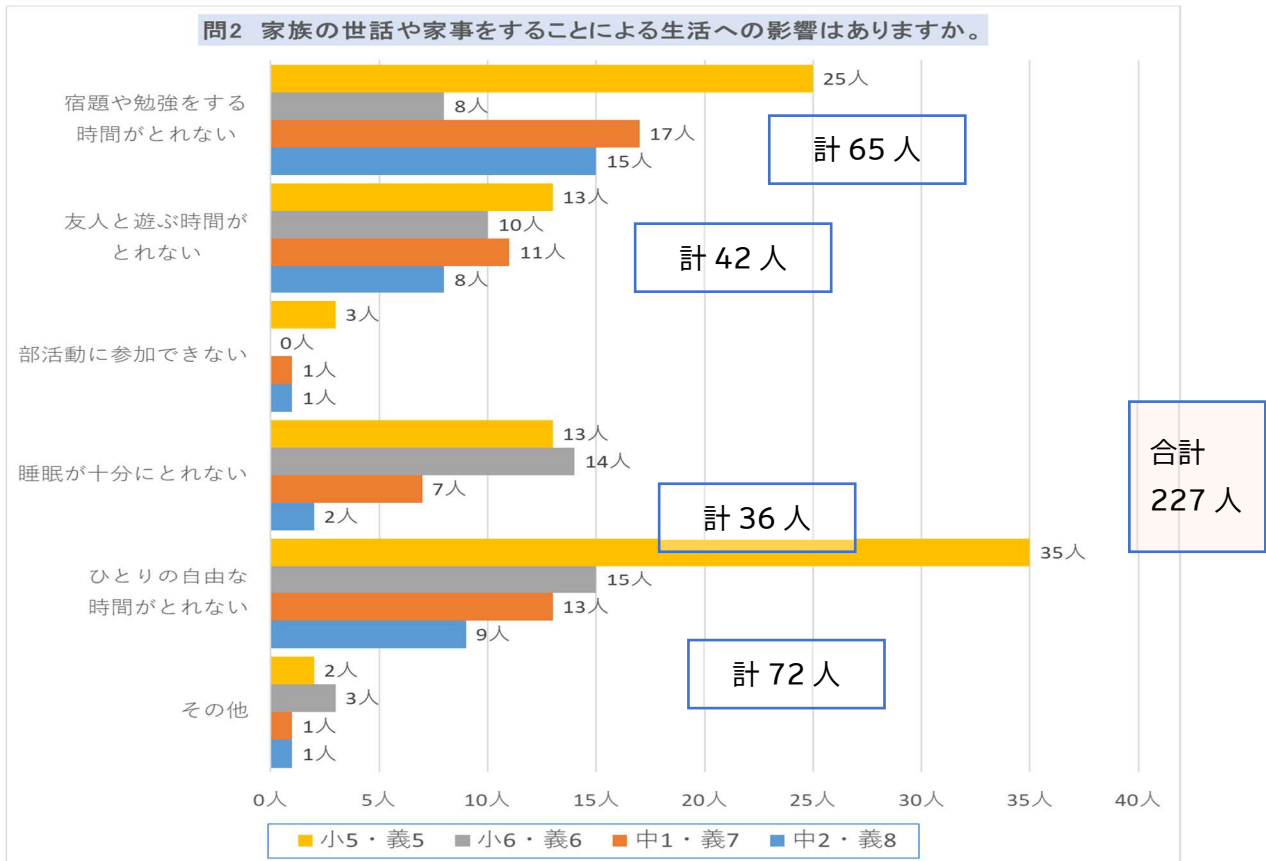
「家族の世話や家事をしている（問1）」の回答のうち、その他を除き、最も人数が多い項目は「家族の心のなやみを聞いている」で合計 274 人、次に「きょうだいの世話や送り迎えをしている」で合計 240 人となっている。

割合では「家族の心のなやみを聞いている」は平均 3.3%、次に「きょうだいの世話や送り迎えをしている」が平均 2.9%となっている。

「きょうだいの世話・・・」から「病気の家族の看病・・・」までの5項目は、何らかの実働が伴っており、合計で 456 人と「ある」を選択した 976 人中 46.7%となっている。

【問2 家族の世話や家事をすることによる生活への影響はありますか】

○実人数



○割合

|         | 宿題や勉強をする時間がない | 友人と遊ぶ時間がない | 部活動に参加できない | 睡眠が十分にとれない | ひとりの自由な時間がない | その他  | 特にない ※2 |
|---------|---------------|------------|------------|------------|--------------|------|---------|
| 小5年     | 1.1%          | 0.6%       | 0.1%       | 0.6%       | 1.5%         | 0.1% | 8.9%    |
| 小6年     | 0.4%          | 0.4%       | 0.0%       | 0.6%       | 0.7%         | 0.1% | 9.0%    |
| 中1(7年)生 | 0.9%          | 0.6%       | 0.1%       | 0.4%       | 0.7%         | 0.1% | 6.9%    |
| 中2(8年)生 | 0.8%          | 0.4%       | 0.1%       | 0.1%       | 0.5%         | 0.1% | 7.5%    |
| 平均      | 0.8%          | 0.5%       | 0.1%       | 0.4%       | 0.8%         | 0.1% | 8.1%    |

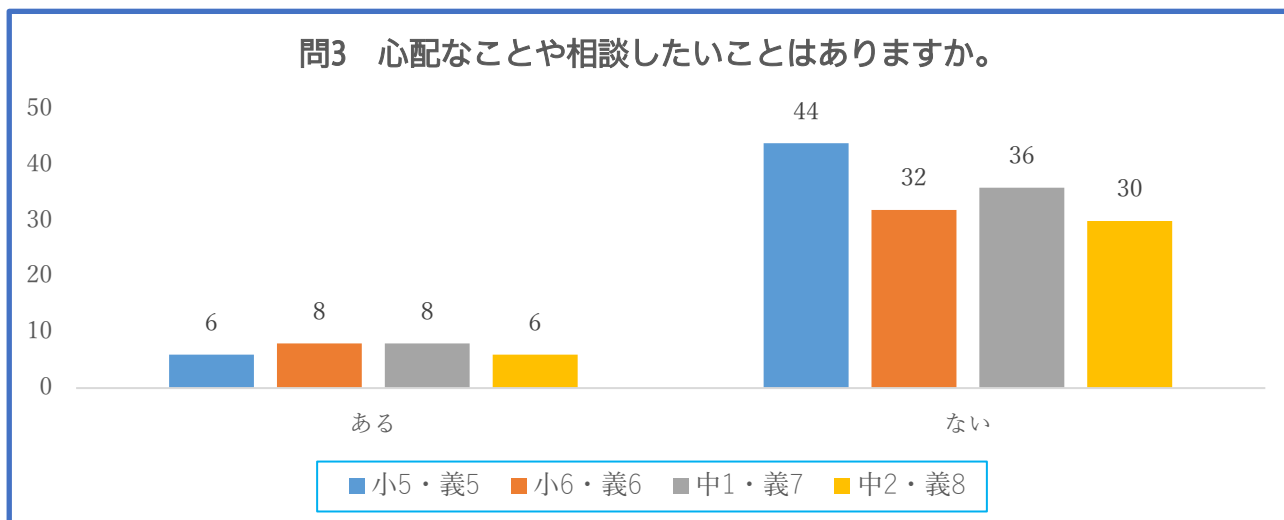
「生活に影響がある（問2）」との回答のうち、最も人数が多い項目は「ひとりの自由な時間がとれない」で計72人、次に「宿題や勉強をする時間がとれない」が計65人となっている。

割合でも「宿題や勉強をする時間がとれない」と「ひとりの自由な時間がとれない」はそれぞれ平均0.8%となっている。

特に小学5年生の「ひとりの自由な時間がとれない」は人数35人で割合1.5%と最も高く、次いで小学5年生の「宿題や勉強をする時間がとれない」が人数25人、割合1.1%となっている。

学年別では、中学生が「宿題や勉強をする時間がとれない」、小学生では「睡眠が十分にとれない」の割合が高くなっている。

### 【問3 心配なことや相談したいことはありますか】



「心配なことや相談したいことはありますか（問3）」に対して、「ある」と回答した児童生徒は28人であった。

これらの児童生徒への対応については、次項により対応状況を報告する。

## 3 回答後の対応

- 28人に対して個別面談の実施を各学校へ依頼  
うち23人については、各学校（担任等）で実施した個別面談の結果を報告いただいている。
- 個別面談の報告内容について、こども家庭課において、その後の対応の必要性・緊急性等について検討を行った。
- 該当児童生徒以外にも、問1及び問2の自由記述欄にて、心配な記述があった児童生徒が6人。  
それぞれの学校にモニタリングを依頼。